

第4回九州森林倶楽部

「紅葉の天然水の森・地蔵峠の散策」



地蔵峠にて

11 月 8 日、本年度最後となる第 4 回九州森林倶楽部「紅葉の天然水の森・地蔵峠の散策」を実施しました。今回は 21 名が参加し、熊本県西原村の南阿蘇外輪山の麓に広がる法人の森「サントリー天然水の森阿蘇」を訪ね、地蔵峠を散策しました。

当日は、11 月にしては汗ばむぐらいの気温と晴天に恵まれ、午前 8 時 15 分に九州森林管理局をバスで出発。登山口から参加者は 3 班に分かれ、九州森林インストラクター会の安樂会長外 2 名の会員の案内で、サントリー天然水の森を経由して地蔵峠を目指しました。



いい汗をかきました



この実は?

登山道の途中では雄大な阿蘇の涅槃像を遠望することができ、参加者一同感嘆の声を上げていました。標高約 1,000 m のサントリー天然水の森に入ると、ブナやミズナラ等の落葉広葉樹林が広がっていました。林内では森林インストラクターの方々から、広葉樹林の水資源のかん養機能や林地保全等の公益的機能、ドングリなど樹木の果実の特性などの説明を受けながら、ゆったりと林内を散策。

その後天然水の森を抜け 12 時過ぎに目的地の地蔵峠に到着。紅葉は時期が少し過ぎていたために残念ながら見ることはできませんでしたが、無風の心地よい秋晴れの中参加者は昼食に舌鼓を打ち下山。

帰りは、サントリー九州熊本工場を見学。工場では、同社が法人の森で取り組んでいる社員研修や森林環境教育活動などの説明を聞き、阿蘇の伏流水で作られるビールなどの製造工程を見学しました。

参加者の方々からは、「少人数のグループでゆっくりと森林浴を楽しめた。森林インストラクターの皆さんから詳しい説明を受けて良かった」などの感想が寄せられ、無事に終了することができました。



阿蘇の山脈を遠望



木の実の鑑定



サントリー天然水の森



サントリー九州熊本工場

列状間伐

第2回九州森林・林業セミナー

の適切な実施による林業経営の健全化と間伐の推進



信州大学：植木教授



(株)ネイチャー6：辻端顧問



植木教授の講演風景

11月6日、九州森林管理局大会議室において、九州各県や森林組合、森林管理局の職員、篤林家等の林業関係者約150名が参加し、第2回九州森林・林業セミナーが開催されました。第2回目となる今回のセミナーは、「列状間伐の適切な実施による林業経営の健全化と間伐の推進」をテーマに、遅々として進めぬ民有林での「列状間伐」を如何に促進していくかの観点から、講演や先進的な取組事例の報告、意見交換や質疑応答が行われました。

まず、沖修司九州森林管理局長が「当局においては、九州から林業の再生」を合い言葉に、持続可能な林業経営を目指したトータルコストの削減に取り組んでいます。この目標を達成するには民・国の連携が不可欠です。本日のセミナーが少しでもコスト削減や列状間伐の促進に繋がるよう期待しています」とあいさつ。

セミナーでは、まず九州森林管理局の大貫森林整備部長が「九州森林管理局における列状間伐に対する考え方と取組事例」を紹介。そのあと、信州大学農学部 植木達人 教授が「列状間伐の考え方と実践」と題して、列状間伐に関する懸念と議論、列状間伐の方法と搬出システム、生産性と生産コストに関する評価、今後の列状間伐の推進などについて講演されました。

続いて、先進的な取組を行っている福井県の(株)ネイチャー

6 顧問の辻端武彦氏から「民有林における列状間伐の実践について～横列間伐とミニ列状間伐との組み合わせによる間伐～」と題した取組事例が報

告されました。また会場から、低コストで効率的な生産を行っている林業事業体の活動事例として、長崎南部森林組合諫早支所の野口業務課長から「高性能林業機械を活用した列状間伐」について報告がありました。

意見交換・質疑では、切り捨て列状間伐の問題点や、民有林における小規模林分の団地化・集約化問題、また、森林所有者がいまだに抱いている列状間伐による林分の劣化や高密度路網による林地荒廃の懸念等、活発な議論が展開されました。

最後にセミナーは、列状間伐に対する森林所有者の懸念や躊躇を払拭するために、今後も列状間伐の実績や科学的な根拠を積み重ね情報発信していくことを確認し終了しました。

参加者の意見や感想

色んなことが不明なまま列状間伐を実施してきたが今回のセミナーで列状間伐の重要性が理解できた。残存木の成長を考えると列状と定性間伐を組み合わせると良いという話は良く理解できた。平成5年から列状間伐を実施している。最初は不安でしたが現在は列状が主流となっているのはうれしい。列状間伐のメリット、デメリットが良く理解できた。列状だから低コストというのは短絡的。中長期的に育林を考えるのが低コストに繋がるのでは。等々たくさん意見・感想が寄せられました。



会場から事例報告：野口業務課長



セミナー会場の様子

熊本市立川尻小学校

11月16日、熊本市立川尻小学校において、PTAの課外学習の一環として、6年生児童や保護者等約100名の皆さんを対象に森林教室を行いました。まず石神指導普及課長が「今日は皆さんに森林のことをより深く知ってもらうために来ました。一緒に楽しく学習しましょう」とあいさつ。それぞれが自己紹介を行ったあと、授業へと移りました。

トップバッターは堂園緑の普及係長によるネイチャーゲーム。動物名が書かれたカードを背にし周囲がヒントを出し合いながら自分のカードの動物名を当てるゲームでしたが、普段と違う授業に収拾が付かないほどに盛り上がりました。自分が何の動物か当てることが出来なかった児童も、森にはこんな動物がいるのかと感心した様子でした。

二番手は新人、緑の普及係の古川技官。「木材について伝えたいこと」をテーマに、DVDで「木を伐るといふこと」「木材を使うといふこと」について質問を交えながら授業を行いました。質問に照れてはにかむ児童もいましたが、しっかり自分の意見を述べる児童もいて、頼もしい一面も垣間見えました。最後は石神課長が森林の役割について総合的な授業を行い、森林教室を終了しました。



森林の役割を説明する石神課長



ネイチャーゲーム：堂園係長



初の森林教室古川技官



質問に答える児童たち

指導普及課では、児童達が今回の森林教室を通して、森林や木材に少しでも興味をもってもらえたらと思っています。

第4回実践・公開講座「草木染め」

10月25日、監物台樹木園において、第4回実践・公開講座「草木染め」を開催しました。講座には36名が参加。その殆どが女性とあって大変華やかな講座となりました。

講師に九州森林インストラクター会の廣瀬三重子さんを迎え、エコバック、ストール、ハンカチを題材とした草木染めに挑戦。最初は模様付け、輪ゴムで縛ったり、割り箸で挟んだり、大豆を包

(セイタカアワダチソウ)、薄紫(口グウッド)の4グループに分かれて作業。ミョウバンの量や煮る時間、温度などに気をつ

けながらロープに掛けて乾燥すれば、鮮やかな草木染めの出来上がり。最後に作品を一堂に集



作品を並べて乾燥

めお互いの出来映えを賑やかに講評。参加者からは「どんな模様になるか分かりまくした様子で作業。せんでしたがとても素敵に出来上がりました」

次の染色工程で「使うのが楽しみです」などの感想が口々に述べられ、出来映えに全員満足の様子で講座を終

えました。

えました。



参加者全員で記念写真

旬の花



ヒイラギ

屋久島世界遺産研究フォーラム報告書出来る！

本年6月27日、「屋久島の価値と科学の役割」と題して屋久島において実施された標記フォーラムの報告書が、このほど出来上がりました。

報告書については、当局のホームページに掲載し、情報発信

に努めることとしています。



フォーラム報告書



11月17日から19日までの3日間、森林管理局大会議室で恒例の「森とみどりの芸術展」が行われました。芸術展は、森林管理局の林友会（親交会）が毎年11月に実施している長年の恒例行事で、職員や家族、OBの皆さんの日頃の趣味や自己研鑽に

励んだ傑作や成果品が会場とこころ狭しと出展され、職員や家族、来庁者など大勢の人が観覧に訪れました。

なお、作品は会場に訪れた人達の投票で、写真・手芸・木工品・絵画・書道の5部門において優秀賞が選ばれ、最終日の昼休み時間の合間に、林友会長（沖局長）から表彰状の授与式が行われました。



作品に見入る人達



写真



寒ラン



絵画



木工品



生け花



書道



手芸

編集後記

先般、くまもと林業担い手元気づくり大会が開催され、若手林業従事者の活動報告を聞く機会があった。発表者のなかの一人の若者は「林業はいまでもきつくて汚い仕事というイメージで捉えられているが、これからは楽しい職場であるというイメージを作り出さないといけない。私にとっての林業は、仕事の合間に魚を釣ったり、イノシシを捕まえたり、仕事仲間との素朴なつきあいができるなど都会やデスクワークでは想像も出来ない体験が日常ふんだんに味わえる楽しい職業でもある」と、林業には楽しい一面もあることを盛んに訴えていた。ちょっと変わった内容の発表に思わず聞き入り、なるほどと、思わず心の中で相づちを打ったが、残念ながら訴える方は若くても、聴衆者は高齢者が大勢であった。

一方、林業後継者の育成はなにも地方に限った課題ではない。たまには都市部の若者をターゲットに、色々な視点から見た林業の魅力を訴える機会があってもいいのではと、思った次第である。

企画官 岸川 正博

一枚からできる地球への思いやり

～九州森林管理局では地球温暖化防止のため、再生可能な間伐材製品利用を推進しています～



伝えたい木の文化、残したい美しい森
「美しい森林づくり推進国民運動キャッチフレーズ」

